

国指定名勝

旧赤穂城庭園

本丸庭園 二之丸庭園



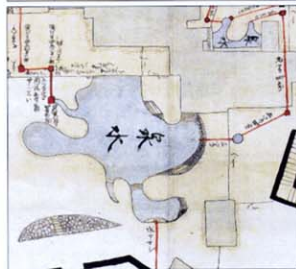
赤穂市教育委員会



名勝旧赤穂城庭園

赤穂城の中に造られていた江戸時代前期の大名庭園で、本丸内に造られた本丸庭園と二之丸北西部に位置する二之丸庭園があります。二つの庭園は、それぞれ庭園の構成や規模は異なりますが、ともに潤沢な旧上水道の水を引き込んだ池泉を持つことが大きな特徴で、城郭内に造営された大名庭園としても貴重なものです。これらの庭園は遅くとも廃城の頃には廃絶され、一度は地中に埋没していましたが、発掘調査によって「発見」されました。

城郭内に造営された大名庭園として、また発掘庭園として貴重なものであることから、2002年(平成14)9月に国の名勝に指定されています。現在は、本丸庭園の整備が完了し一般公開されるとともに、二之丸庭園も整備が進んでおり往時の姿を取り戻しつつあります。



上：浅野家時代の本丸大池泉
『赤穂城本丸指図』部分
(たつの市立龍野歴史文化資料館蔵)
下：森家時代の本丸大池泉
『赤穂本丸内水筋絵図面』部分
(兵庫県立赤穂高等学校蔵)

本丸庭園



二之丸庭園



御殿南の大池泉



中奥坪庭

本丸庭園には、御殿南面の大池泉、中奥坪庭の小池泉、本丸北西隅の池泉があり、いずれも発掘調査によって見つかった池泉遺構ですが、現在は修復整備がなされ、御殿の間取り表示とともに往時の庭園景観が再現されています。

大池泉は岬・入江・中島・景石を配し、池底には板石や瓦を敷き並べています。池泉は浅野家時代に造られたものを森家時代に改修されたことが、発掘調査や絵図資料からわかっており、現在はその変遷がわかる形で整備されています。中奥坪庭の小池泉は、二つの並列した池泉から構成されています。池泉の南側護岸には、漆喰に玉石を配した蔽こぼし状の特徴ある仕上げとなっています。本丸北西隅の池泉は、絵図等からは知られていませんでしたが、発掘調査によって見つかりました。池からは「大石内蔵助」「浅野内匠頭」などの人物名を記す木簡が出土しています。

二之丸庭園は、平成10年度～平成13年度にかけて全面発掘調査が行われ、見つかった池泉遺構の修復が進められていくところ。庭園は、大石頼母助屋敷南面から二之丸西仕切にまで至る大規模な池泉を中心としており、屋敷に近い部分では、池底に玉石や板石を敷き詰め、上水道の水が注ぐ流れの池泉であるのに対し、南西に広がる部分は水深も深く船遊びができるような雄大な空間となっています。この二之丸庭園については、赤穂に配流されていた山鹿素行が自身の日記に、茶亭での茶事に招かれたり、「錦帯池」と呼ぶ池泉で船遊びなどの歓待を受けたことを記しており、当時どのように庭園が利用されていたのかをうかがい知ることができます。

現在、大石頼母助屋敷に近い流れの池泉部分については、発掘調査によって検出された東屋を整備するとともに、池底に堆積していた土の花粉分析などから判明した樹木を植栽して当時の景観を再現しています。



大小二つの中島を備えた雄大な池泉下流部（発掘状況）



絵図に描かれた二之丸庭園の池泉

上：『赤穂城内侍屋敷間数図』部分
（『赤穂市史第五巻 付図3』から一部転載、
原図は花岳寺蔵）

下：『浅野家時代赤穂城之図』部分
（兵庫県立赤穂高等学校蔵）

山鹿素行『年譜』
（広瀬豊編『山鹿素行全集 思想編 第一五巻』
岩波書店 一九四一年 所収）

寛文九己年（一六六九・四八歳）
播陽に在り
（中略）
（三月）
十四日、大石氏の茶亭に遊ぶ。海棠の花盛に開笑く。龍船を戯し、短棹長歌して夜に及ぶ。酒盃狼藉。
廿一日、再び大石氏に遊ぶ。海棠既に衰ふるも尚ほ葉底に残紅あり、牡丹悉く開花す。大石浮玉堂に於て新に茶壺の口を啓き、之れを碾き之れを點す。一葦に棹さして錦帯池に浮び夕に及ぶ。太守来臨、仙舟を同じくして遊興す。太守笑句あり。

史跡赤穂城跡

赤穂城は、正保2年(1645)に常陸国笠間(現在の茨城県笠間市)から石高53,500石で入封した浅野長直が、近藤正純に築城設計を命じ、慶安元年(1648)から寛文元年(1661)まで13年を費やして完成させた城です。その縄張は甲州流軍学によってなされたといわれ、本丸と二之丸の関係は輪郭式ですが、二之丸と三之丸は梯郭式に配し、櫓10箇所、門12箇所、枳形5箇所を設けて防備の要としています。城は、熊見川(現千種川)が形成した三角州の先端に立地していますので、典型的な平城です。また、往時は二之丸の南半分と三之丸の西側が瀬戸内海に面していたので、海城であったことも大きな特徴の一つといえます。

この城を築城した浅野家は、元禄14年(1701)、江戸城中の刃傷事件によって断絶し、その後は永井家を経て森家の居城となって明治の廃藩置県を迎えました。廃藩後に城郭建物も順次取り壊され、城内の大部分は田畑や宅地となりましたが、昭和46年(1971)の国史跡指定後は赤穂市によって指定地内の公有化が図られるとともに、史跡及び都市公園として整備事業が進められています。また近年では、平成18年(2006)に日本100名城の一つとなりました。



大手隅櫓(昭和30年再建)



史跡大石良雄宅跡の長屋門

利
用
業
内

交通	J R 播州赤穂駅から徒歩20分 山陽自動車道赤穂 I.C. から車で約10分
公開時間	本丸庭園 開園時間 9:00~16:30 12月28日~1月4日は閉園 二之丸庭園 整備中のため、公開は不定期
連絡先	赤穂市教育委員会 生涯学習課 文化財係 〒678-0292 兵庫県赤穂市加里屋81番地 TEL0791-43-6962